

序

2006 年度から、北海道教育大学旭川校は教科教育に特化したカリキュラム編成となり、社会科教育専攻の専門科目の中に、新たに社会調査実習が盛り込まれることとなった。そして、2008 年度は社会調査実習の初開講である。受講者が集まるか、フィールドに出る時間があるか、フィールドに出るまでに学生に調査能力が備わっているか、そして報告書をまとめる力があるのか、などなど、初めてだからこそ不安の多いスタートでもあった。今年度は、受講者は当初の予想を大きく上回る 10 名であった。うち 1 名は諸般の事情で離脱したが、最終的に報告書を発行できるまで、かれらはがんばってくれた。

本年度のテーマは、「冷熱エネルギーを利用したまちづくり」である。2007 年 11 月、卒業論文のための学生の沼田町での聞き取り調査に同行した。札幌琴似の古本屋で偶然に見つけた『雪に輝く米』を読んで以来、ずっと気になっていたテーマであった。雪国に住んでいるものにとって、雪は厄介な邪魔物でしかないが、あえてそれを利用しようという試みは、強風に悩まされてきた地域が風力発電に活路を見出そうとする論理と共通するものがある。『雪に輝く米』には、そのサクセスストーリーが興味深く描かれていたが、さらにもっと深く知りたいという欲望が湧いた。道内に雪はふんだんにあるにもかかわらずなぜ沼田が目立っているのかという問いを明らかにしてみたくなったのである。

本報告書は、今まで語られていなかった冷熱エネルギー利用の姿を明らかにすることを目的とした。また、各論考をまとめる際には、先入観を極力除去することを心がけたつもりであるが、それが実現しているか否かについては読者の判断に任せたい。本報告書にまとめられた論考を見ていただければわかるが、冷熱エネルギーによる沼田のまちづくりは、さまざまな観点からスポットライトを照らしてみると、いろんな見え方になる。中には多少批判的な記述もある。もちろん、完全無欠なものなどこの世に存在するわけではない。しかし、外部からの視点だからこそ見えてくるものもあるだろう。

本年度の調査は、沼田町の他、美唄市・札幌市・岩見沢市での聞き取り調査も行われた。6 月 26 日に初めて沼田を訪れ、9 月 29.30 日と 10 月 3 日、11 月 13.14 日と 17.18 日の 2 回にわたり、集中的に聞き取り調査を行った。聞き取り調査の件数は 20、その他、関係者の方から便宜を図っていただき、美唄自然エネルギー研究会例会への参加や室蘭工業大学主催の沼田・美唄視察へも同行させていただいた。今年度の調査にご協力いただいた方々には、記して感謝申し上げたい。

大学も社会貢献を求められる時代である。社会調査実習という講義であるがゆえに、第一に学生への教育的効果が優先されなければならないのかもしれない。しかし、それにとどまることなく、本報告書が、今後の沼田のまちづくり、ひいては、降雪地域におけるまちづくりを考えるきっかけとなれば幸いである。

角 一典（北海道教育大学旭川校准教授）